

皆さまと株式会社アクロスをつなぐコミュニケーションマガジン「ACROSS LETTER 第19号」をお届けします。秋の夜長、読書も良いですね。

今号では、大規模修繕では欠かせないシーリングと、コロナで変わってきた新しい仕事のやり方を書かせていただきました。次号は冬(1月)の予定です。



最近の大規模修繕工事事情

目立たないけれど、重要なシーリング

■シーリング材とは

外壁部材の隙間を埋める目地に詰めるものです。部材が温度や湿度の変化、あるいは地震や風圧によって、ずれたりぶつかり合うのを防ぐために目地は作られています。そのままでは水や空気が入って、水密性や気密性を損なうのでシーリング材を詰めることになります。

■シーリング材の3要件

- ① 水密性・気密性を付与できる材料であること。
- ② 目地の動きに追従できること。
- ③ 耐久性に優れていること。



■シーリングの劣化と補修

3年から5年もすると劣化が始まります。シーリングを交換することを「打ち替え」と言い、漏水につながることもあり重要な作業として、大規模修繕時期には必ずと言っていいほど、打ち替えは行われます。アクロスでは10年を目安に打ち替えを推奨しております。シーリング材の種類は、アクリル系・ウレタン系・ポリウレタン系・シリコン系があり、ポリウレタン系を使う場合が多いです。

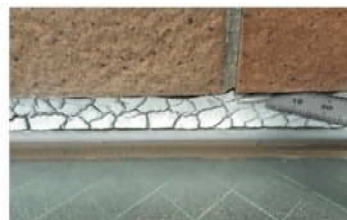
■シーリング材の打ち替えの流れ

- ① 既存シーリング材の撤去
- ② 清掃・プライマーの塗布
- ③ シーリング材の充填
- ④ 成形・完了

(文・金本)



■劣化の一例



剥離・変退色・ひび割れ・白亜化



口開き・退色・白亜化

■打ち替えの一部



ポリウレタン充填

最近のアクロス事情

オンラインでつながる、テレビ会議システムを導入しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために緊急事態宣言が発令された5月にはテレワークが一気に普及しました。弊社でも、社員の7割以上が在宅勤務にシフトしました。その間でも現場は進んでいましたので、現場担当は直行直帰で対応しました。現在は、ほぼ元どおりの勤務形態に戻っております。



TELEWORK

テレワークとは、離れた場所を意味する「tele」と、働くという意味の「work」を組み合わせた言葉です。総務省の定義では、「ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」となります。

テレワークもそのひとつですが、テレビ会議もまた新しい仕事の進め方として定着していくと思われます。弊社でも、管理組合や工事会社の方々とテレビ会議を行っている物件もございます。オンライン用に専用のカメラを導入しましたので、ご要望があれば対応できますのでおっしゃってください。場所を問わず打ち合わせもできます。是非ご活用ください。(文・下門雅士)



あとがき

ウィズコロナ、ポストコロナ時代に対応した経済活動が動き始めています。コミュニケーションを大事にしながら、皆さまのお役に立つ情報を届けます。コミュニケーションを大事にしながら、皆さまのお役に立つ情報を届けます。アクロスレーターをよろしくお願ひします。

現在弊社では、業務をさらに充実させるため、岡山と大阪で設計・営業スタッフを募集中です。

ACROSS LETTER発行人 下門・石川・横井・金本
info@across21c.co.jp

